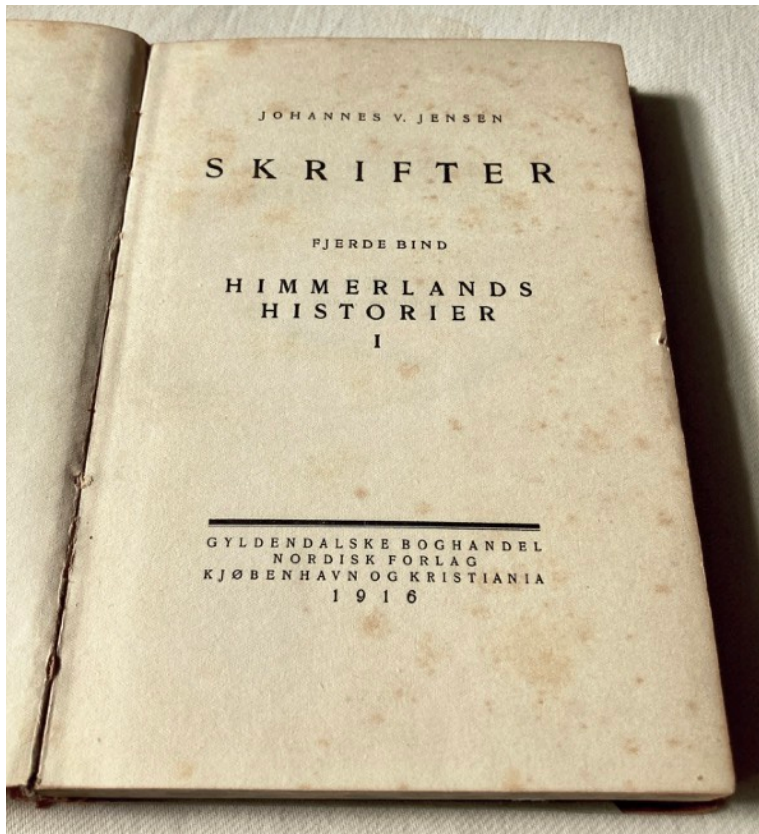
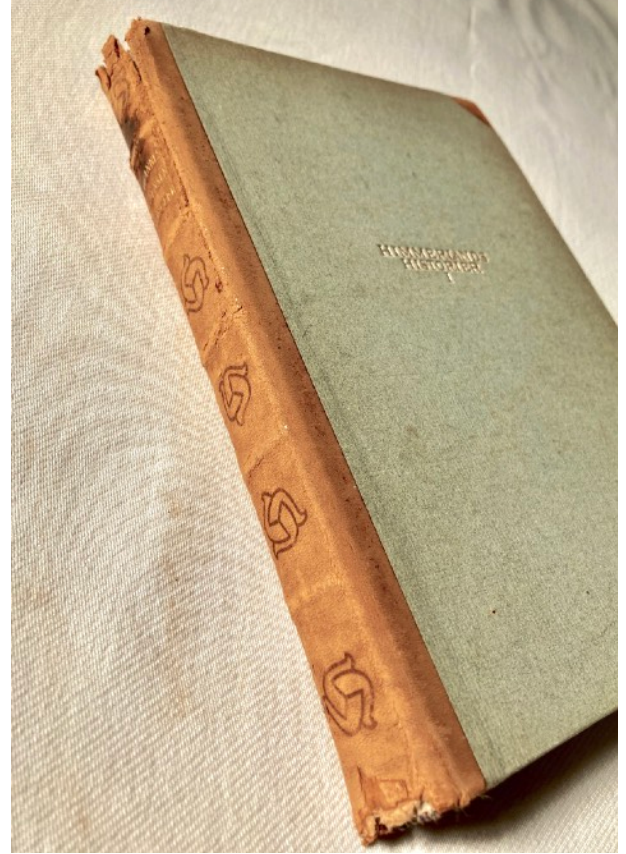
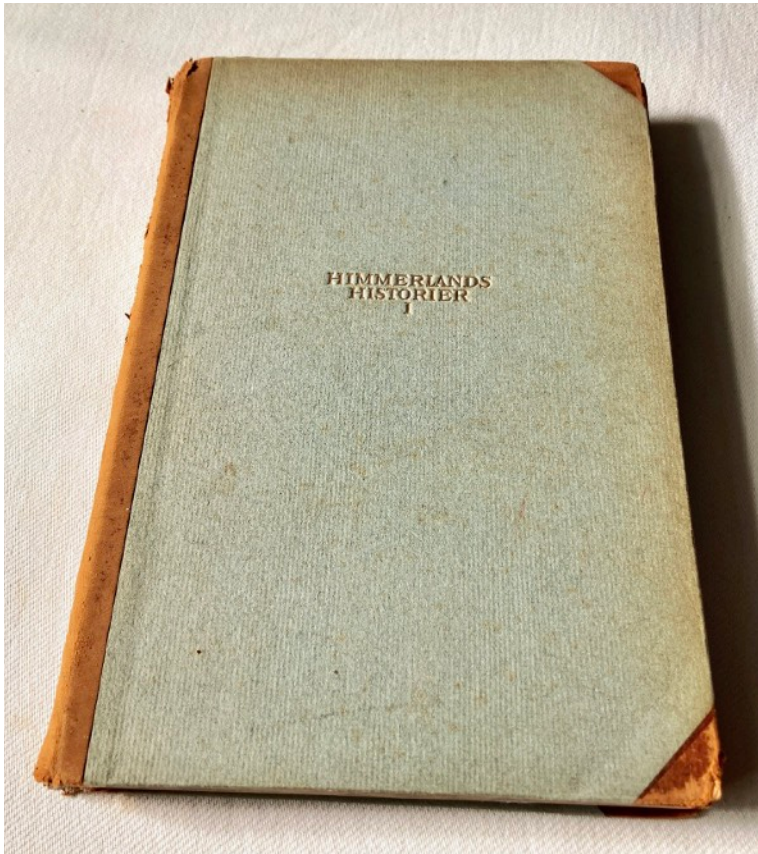


謎の機械綴じ本

本科基礎1クラス講師 野呂聡子

2023年度の本科基礎クラスで古書の全解体実習をおこなった。その際に受講生の村上さんが持参した一冊が、見たこともないユニークな綴じ方をしている本であることが判明した。



ヨハネス・V・イェンセン著作集 第4巻
ヒンマーラン短編集1

GILDENDARSKE書店

NORDISK出版

コペンハーゲンおよびクリスチャニア

1916年

152mm×218mm

背革コーネル装

おそらく羊革

ヨハネス・ヴィルヘルム・イェンセン

Johannes Vilhelm Jensen (1873–1950)

デンマークの小説家。1944年ノーベル文学賞受賞。代表作に暴虐なデンマーク王クリスチャン2世を描いた歴史小説『王の没落』、そして『ヒンマーラン短編集』がある。

ヒンマーランはデンマークのユトランド半島北東部にある半島。

GYLDENDALSKE書店

ギルデンダル書店（「SKE」は「～の」を表す接尾辞）

1770年創業のデンマークで2番目に古い出版社。1903年、ライバル企業であったNORDISK出版と統合した。『ヒンマーラン著作集』のタイトルページに記載されているのはこの時の社名。

1661年創業のSchultz社が2007年、同社に吸収されたため、現存している出版社としてはデンマーク最古となった。

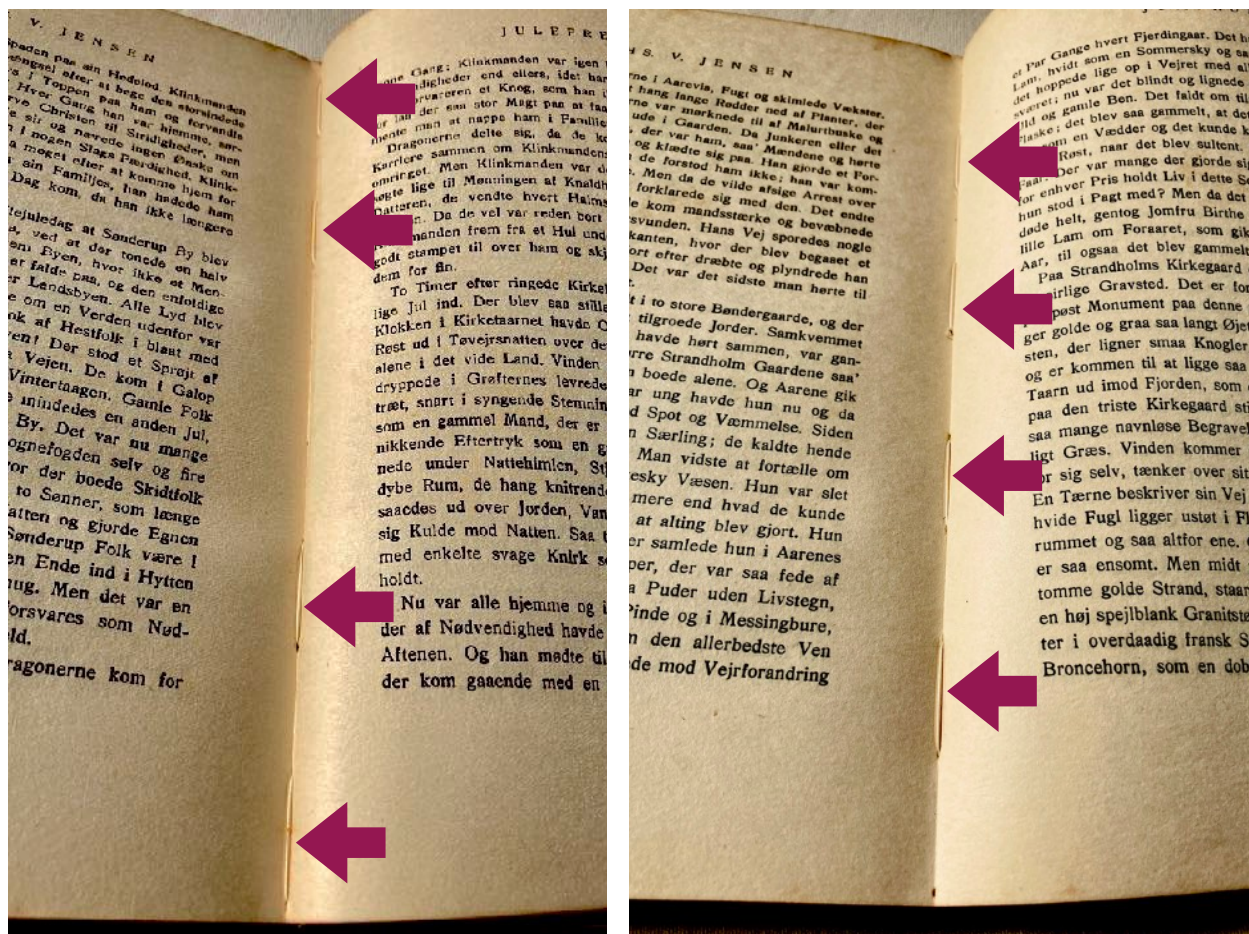
創業者ゼーレン・ギルデンダルは学生時代から書籍販売を手がけ、28歳で書店主となった。常設の委託代理店による流通システムを導入することでデンマークの書籍市場に革命を起こす一方、デンマーク文学にも関心を持ち、著名なデンマーク文学作品を自社から出版した。当時の文人たちからは「科学の推進と読書の普及」に貢献し、社会の発展に大きく寄与した「国民的出版人」として賞賛されている。

綴じ方



・ 4枚ひと折り

- ・背に貼った寒冷紗の上から（＝寒冷紗を巻き込んで）綴じてある
- ・最初と最後の折丁以外は、抜き綴じのように折丁ごとに交互に糸が入っている
- ・全ての折丁において、糸は常に2本ずつ渡っている
（かに見えたが最後の折丁は違う可能性も。解体の過程で糸が切れただけかもしれないが）
- ・年代からしても異様な複雑さからしても、おそらく機械綴じ

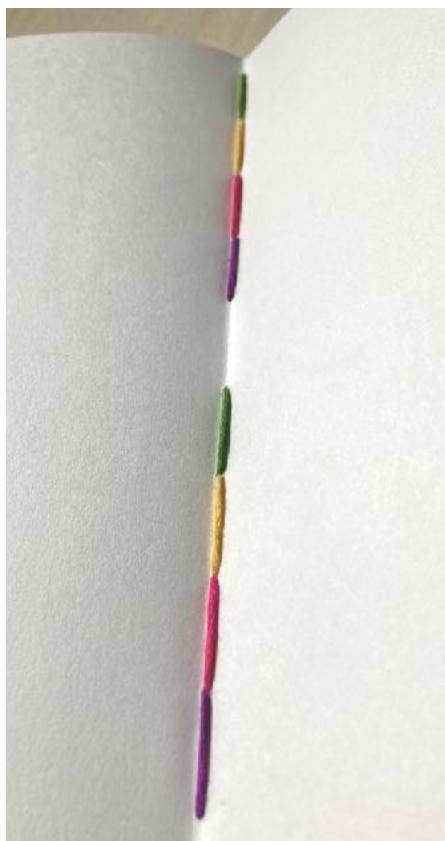


折丁ごとに糸の位置が上下する

綴じ糸の位置や繋がり方から綴じの構造を推測し、サンプルを作成。



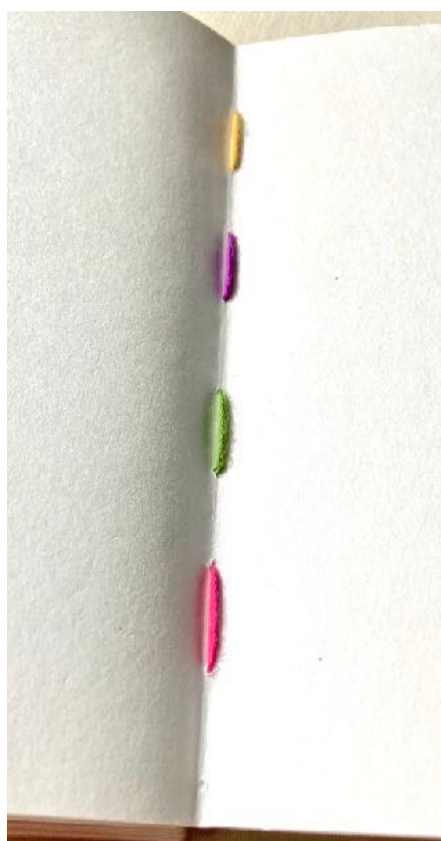
作業が複雑になりすぎるため、寒冷紗の巻き込みは省いて綴じ構造の再現のみを目指した。



1 折目



2 折目



3 折目

以降は2折目・3折目と同様の並びが交互に続き、最後の折丁は1折目と同じになる。
綴じ糸は天側の4本と地側の4本で独立しており、天側と地側の糸は交わらない。

のちに藤井先生より以下の動画を紹介していただいた。

<https://www.youtube.com/watch?v=ls-UBLpos9c>

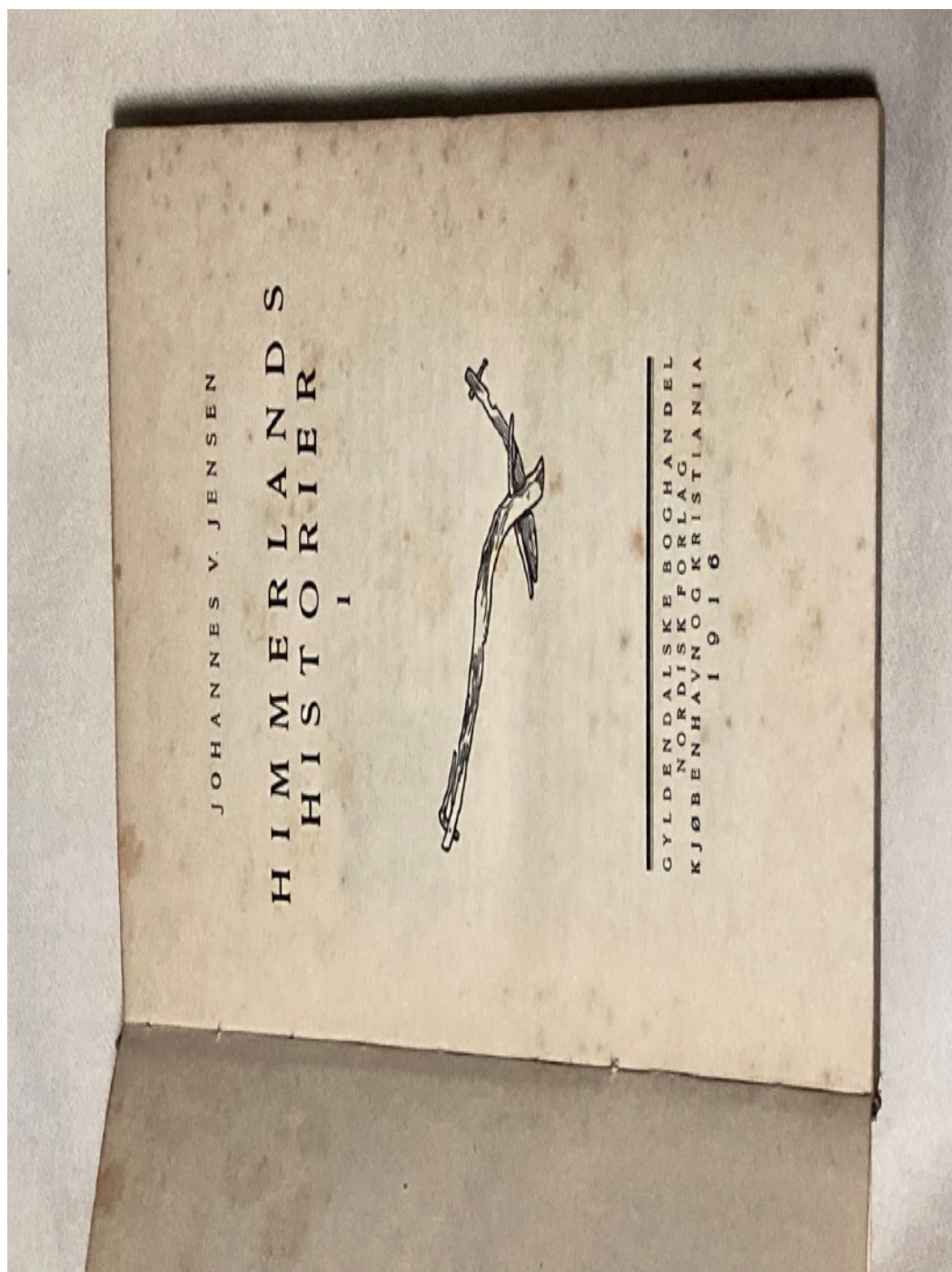
綴じ機の登場は冒頭の2:55～3分ほど

寒冷紗を挟みながらの綴じであること、糸が8本であること、綴じ位置が折丁によってずれたり戻ったりしているようであることから鑑みて、おそらく『ヒンマーラン短編集』にもこの動画のものと同様の綴じ機が用いられている。

綴じ機の制作年代や流通地域は不明だが、ギルデンダル書店はデンマークとノルウェーに跨る大手出版社であるため、同様の綴じ機で製本された書物は相当数流通していたと思われる。

但し、この綴じ方の書物が世界的に広くみられるという訳でもなく、寒冷紗を巻き込みながらの綴じという点に限っても稀な方ではあるので、いずれ登場したより効率的な綴じ機によって退役を余儀なくされたのではないか。

ドイツの針金綴じ本等と同様、短命ながらも製本史の1頁を飾った独特の様式という所だろう。



標題紙をめくるとさらに扉が。木工品のようなものが描かれているがなんだか分からない。綴じ機の詳細と並んで、情報をお持ちの方はお寄せいただきたい所である。